



2025年度第6回SVL理事会後 メディア報告会

2025. 12. 17

公益社団法人SVリーグ

本日のアジェンダ

0. はじめに
1. 2026-27以降のCSファイナルの形式について
2. SVリーグの社会貢献活動 “Smile Rally (スマイルラリー)”
3. SVユースの発展に向けた今後の方針
4. 2026-27以降の現Vリーグ運営について
5. Q&A

0. はじめに

0. はじめに

Strictly Confidential



1. 2026-27以降のCSファイナルの形式について

1. 2026-27以降のCSファイナルの形式について

Strictly Confidential

【背景】

- ✓ 2026-27シーズンより、SV男子は12クラブにエクспанションすることを想定しており、SV女子は東西制・38試合に移行
- ✓ リーグの構成の変化や対戦の平等性の確保がなされることを踏まえて、現行規定に基づくCS方式を見直し

現行規定

2025-26 大同生命SV.LEAGUE 試合実施要項

第5条〔CS出場クラブの決定方法〕

CSの出場クラブは、リーグ戦の最終順位に基づき、男女別にそれぞれ次の通りに定める。

- ① 総クラブ数が12クラブ未満：上位6クラブ
- ② 総クラブ数が12クラブ以上：上位8クラブ

→ 現行規定据え置きとした場合、男女共に「上位8クラブ」がCS出場枠内となる
※男子：12クラブ（見込み）・女子：14クラブ

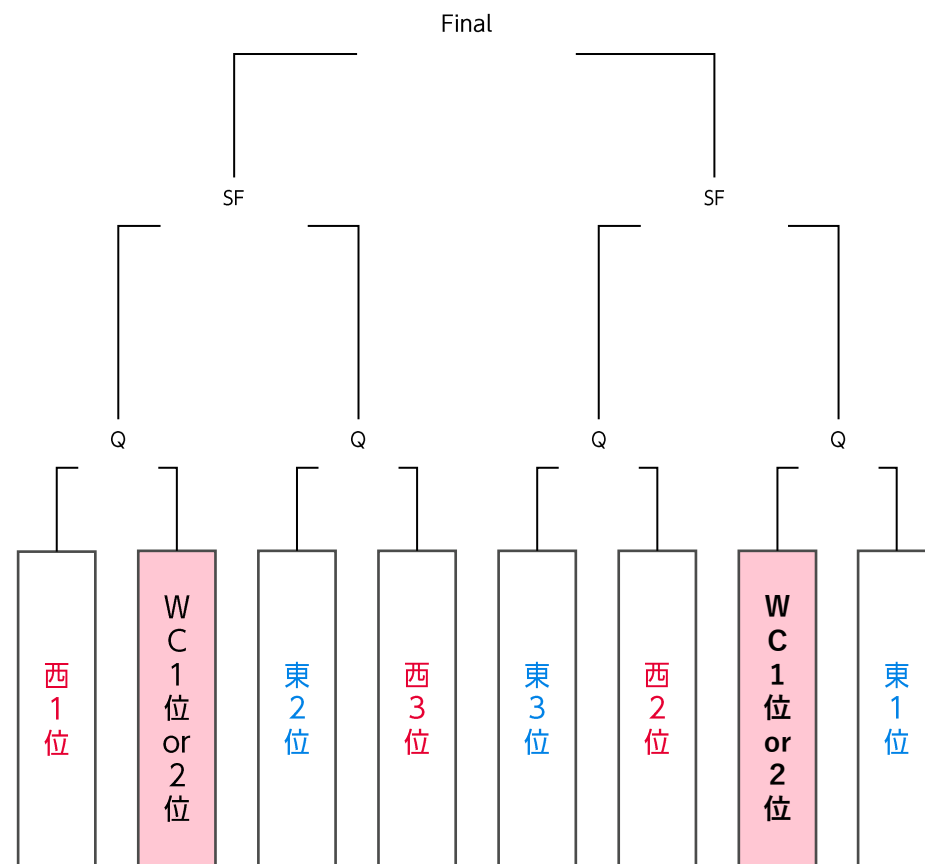
1. 2026-27以降のCSファイナルの形式について

WOMEN

- ✓ チャンピオンシップ出場クラブ数：8クラブ
 - 東西カンファレンス各上位3クラブ
 - 各カンファレンスの上位3クラブを除いた8クラブのうち、上位2クラブ
 - ⇒上位から順に「ワイルドカード1位（WC1位）」、「ワイルドカード2位（WC2位）」とする

背景

- ✓ 出場クラブ数は前シーズンまでと変更がないため、チャンピオンシップ出場クラブ数も維持
- ✓ ワイルドカードの導入によりカンファレンス間格差を是正、および終盤戦の盛り上がり強化



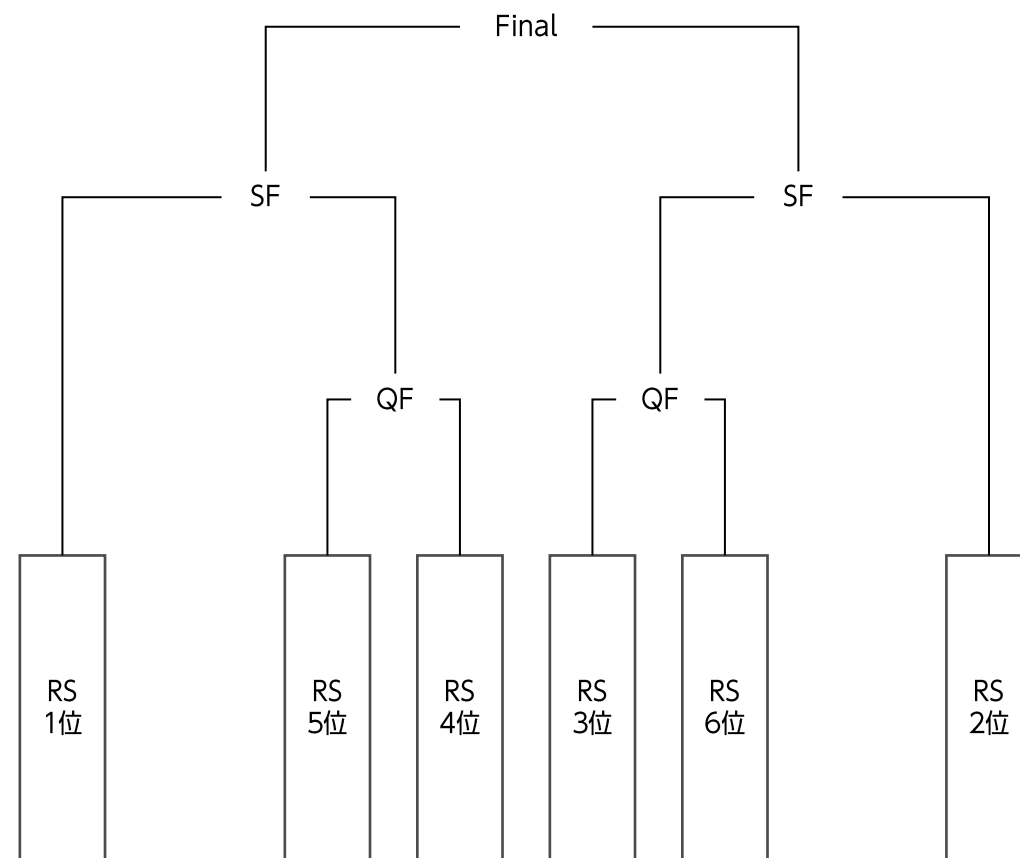
1. 2026-27以降のCSファイナルの形式について

MEN

- ✓ 12クラブ構成の場合 -
チャンピオンシップ出場クラブ数：6クラブ
- ✓ 14クラブ構成の場合 -
チャンピオンシップ出場クラブ数：8クラブ

背景

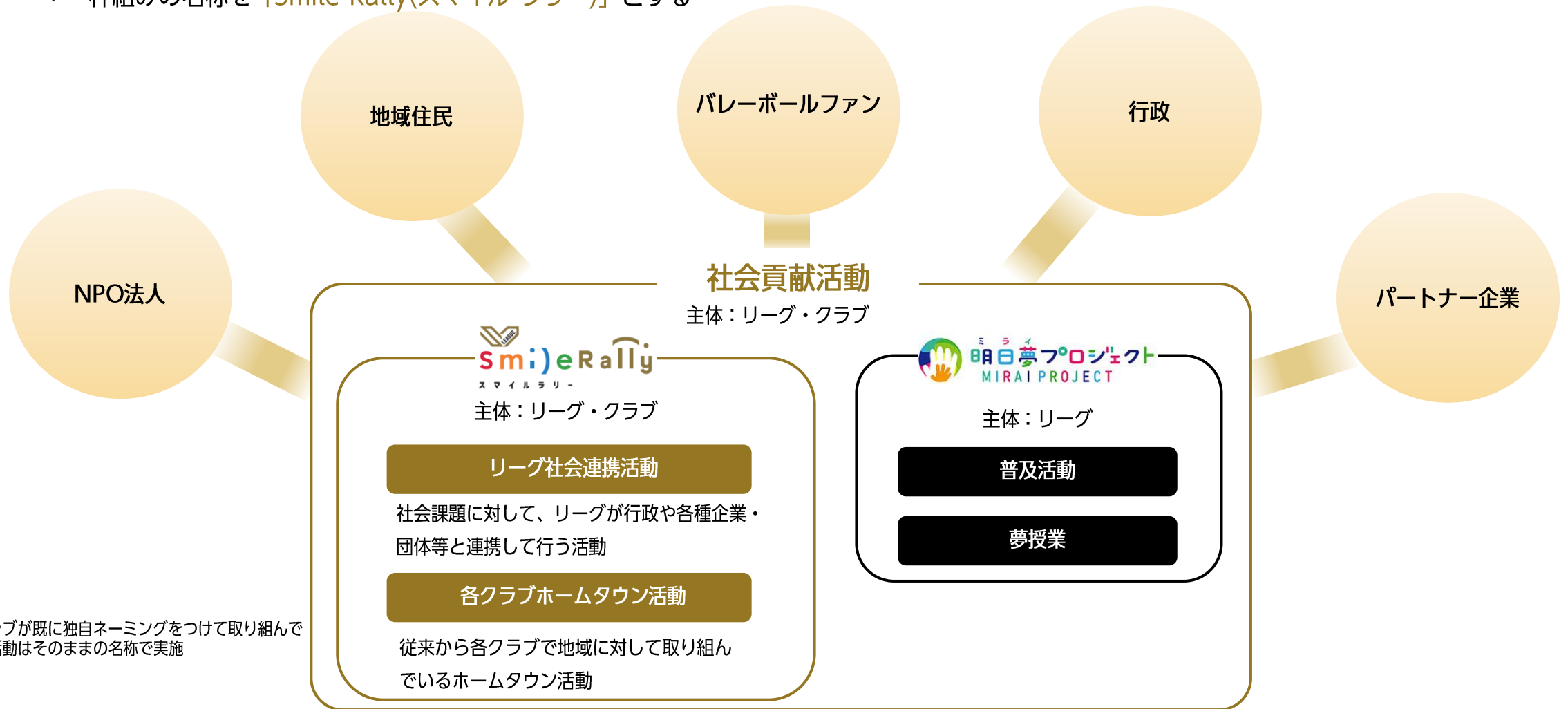
- ✓ RS12クラブ制となることで4回戦総当たり方式でのレギュラーシーズン開催が可能となり、公平性が担保される
- ✓ 上位クラブにアドバンテージ設定ができる
- ✓ 14クラブ構成となった際には出場クラブ数を増やす



2. SVリーグの社会貢献活動 “Smile Rally (スマイルラリー)”

2. SVリーグの社会貢献活動 “Smile Rally (スマイルラリー)”

- ✓ 各クラブが従来より行っているホームタウン活動、およびリーグが行政や各種企業・団体と連携して社会課題の解決に向けて取り組む活動を包含した枠組みを新たに定める
- ✓ 枠組みの名称を「Smile Rally(スマイル ラリー)」とする



※各クラブが既に独自ネーミングをつけて取り組んでいる活動はそのままの名称で実施

2. SVリーグの社会貢献活動 “Smile Rally (スマイルラリー)”



バレーボールをきっかけにした地域活性の取り組みから笑顔が生まれ、その笑顔がまた次の支援へとつながっていく。

世界中で親しまれるバレーボールだからこそ、笑顔の輪を社会全体へと大きく広げる原動力になれる。

年齢性別を超えて人々が絆を取り戻し、誰もが毎日を生き生きと楽しむ社会をめざして、SVリーグは様々な活動に取り組みます。

“つなぐ”スポーツ、バレーボールの力を信じて。



性別・年齢・障がい・地域の違いを越えて、すべての人が尊重され、誰かにつながっていると実感できる社会を目指していきます。



スポーツの力で、国を超えて人と人がつながり、ウェルビーイングの輪を世界へ広げていきます。



未来の子どもたちが、希望あふれる未来へつながるように。心が育ち、暮らしが守られる豊かな社会の実現に貢献していきます。

2. SVリーグの社会貢献活動 “Smile Rally (スマイルラリー)”

リーグの特徴を活かすことができる活動分野

スポーツがもつ特徴

- 健康・体力づくり
- ルールが万国共通＝言語の違い関係なく楽しめる
- 老若男女問わず楽しめる仕組み

SVリーグがもつ特徴

- 女子と男子を内包するリーグである
- 女性ファンが多い(推し活文化)
- 外国籍選手&外国ルーツ選手の増加
- アジア戦略
- 経営力・影響力・競技力での世界最高峰を目指している

プロスポーツがもつ特徴

- エンタメ性
- 人が集まる場(平均3,000-1,200人集まる)
- トップレベル選手の存在(子ども達の憧れ・夢)
- 地域活性・地域愛着への貢献

バレーボールがもつ特徴

- 生涯スポーツ・障害スポーツ
- 全世界での競技人口が全スポーツ中第一位
- 他競技と比較して女子の競技人口多い
- アリーナスポーツ(天候に左右されない)
- [「好きなスポーツ選手」](#) 総合2位・3位・9位にバレー選手

【親和性が高い活動】 ①インクルーシブな社会づくり(老若男女・障害有無・異文化理解) ②女性が活躍できる社会づくり

+

【スポーツチームとして取り組むべき活動】 ①子ども達が笑顔で過ごせる社会づくり ②環境問題(脱炭素)

3. SVユースの発展に向けた今後の方針

SV.LEAGUE

SV.LEAGUE 育成グループ

- Mission（存在意義） ■ 世界で最もハイレベル／プロフェッショナルな育成環境を作り、日本全国に波及させる
- Vision（目指すこと） ■ 世界最高峰のリーグで活躍できるトップレベルの選手を一人でも多く輩出する
■ バレーボールのすそ野を拡げ、若年層の競技人口を増やす

ビジョン達成に向けた3つの柱

アカデミー（ユース）整備 (U18/U15)

- ・中高年代を一気通貫で育成できる仕組みを構築
- ・世界に通用する選手をサステナブルに輩出

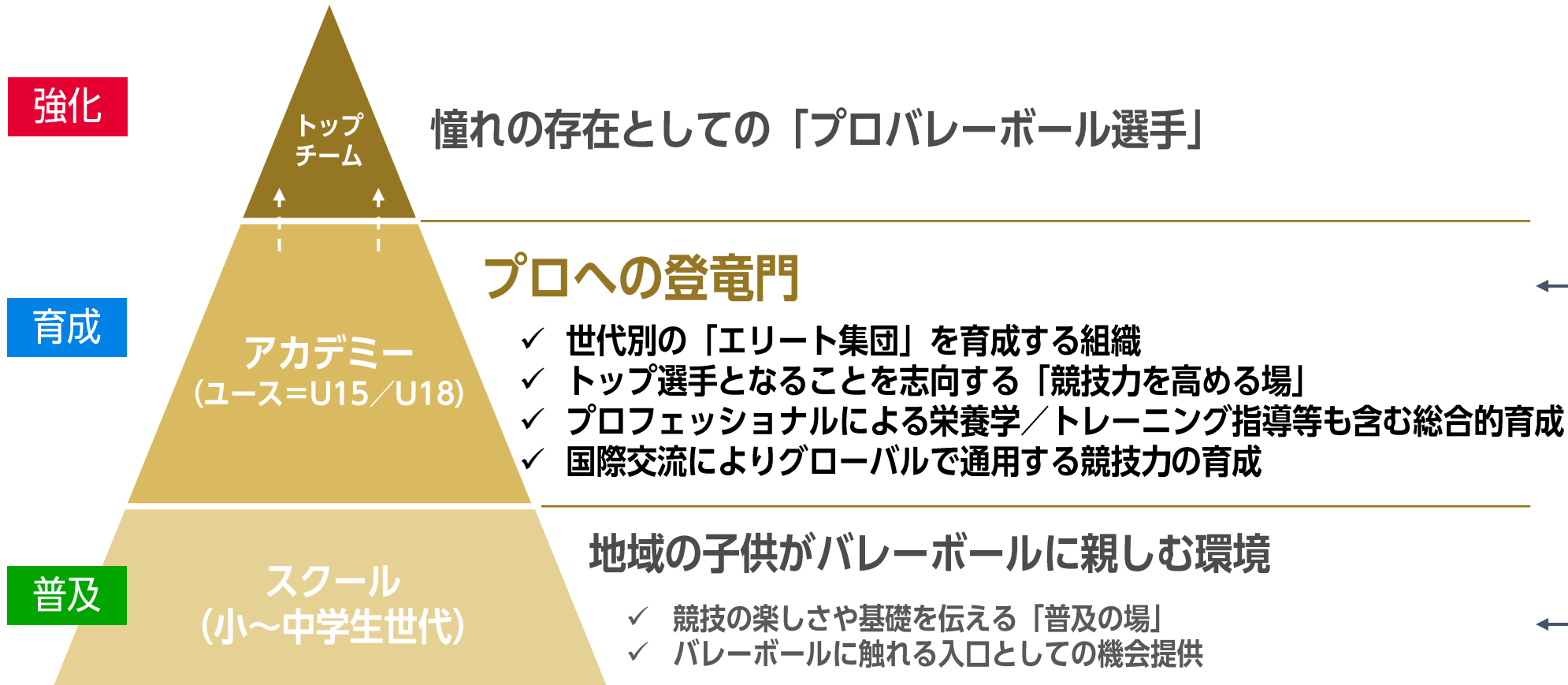
スクール活性化 (小～中学生世代)

- ・幼少期からバレーボールに親しむことができる環境づくり
- ・部活動地域展開の受け皿

指導者養成

- ・アカデミーとスクールの価値を高める、クオリティの高い指導者の養成

- ・中高の部活ルートに加え、SVユースの活性化による育成方法の複線化
- ・早い段階からトップレベルのプロ選手と共にトレーニングができる環境の提供



◆ ホームタウンに根差した活動
◆ 部活動の地域移行の受け皿形成
(特に「普及」チーム)

※用語の定義

- アカデミー：クラブが保有する育成組織の総称
- ユース：トップ直下で活動する世代別チーム（育成組織（アカデミー）内での世代別トップチーム）

2. U18の整備方針：U18ライセンス要件の変更案

Strictly Confidential

- ✓ 27-28、28-29の2シーズンのライセンス要件を緩和し、「29-30」から完全なA等級とする（ライセンス交付規則の変更は後日別途決議する）
- ✓ U18の大会自体は27-28に創設し、準備ができたクラブから参戦頂く

現在

24-25	25-26	26-27	27-28	28-29	29-30	30-31
C等級			A等級			
← 24-25からの3年間を準備期間として設定						

変更案

24-25	25-26	26-27	27-28	28-29	29-30	30-31
	C等級		猶予設定		A等級	
		準備期間			SV全クラブが活動実施	
			U18大会スタート／順次拡大			
	27-28シーズンは「U18活動開始の第一歩」の年と位置付ける					
					※29-30からA等級＝ 「29-30開始時点でU18を保有・設立済みである」 「29-30シーズン中にU18設立の計画がある」	

4. 26-27以降の現Vリーグ運営について

5. Q&A

